

子ども学の ひろば

お便り

POST

◆私の「カルチャー・いんふお」◆

日本最西端の島は与那国島だ。西端の岬、西崎から台湾まではわずか110キロしか離れていない。気候は亜熱帯に属し、アヤミハビル館では、よなくに蚕という、広げた左右の翅が24cmにもなる大きな蛾の生態を知ることができる。観光の島であり、訪れるのはカジキマグロ等を狙う釣り客や透明な海を愛するダイバーだ。最果てのイメージが作家たちの冒険心をかき立てるのが、司馬遼太郎が訪れている（『街道をゆく6 沖繩・先島への道』朝日新聞社 2005年）。

「門中墓」は、比川地区への道沿いにあった。「浮世で住んでいる家なんかより立派」と島民が言う。門と屋根のあるお墓が斜面に並ぶ。墓地からの眺めは草はらとその向こうに果てしなく広がる海原。この島では幽明の界がなく、死者も地上と同じかそれ以上の明るい、海風の吹き渡る台上で暮らすぞうだ。また琉球の神々は天から天降るより海から来ると信じられている。

椎名誠はタクシーから放し飼いの牛や馬を見ている（『あやしい探検隊不思議島へ行く』光文社 1985年）。「島独特のヨナグニ馬で本土の馬の二分の一ぐらいの大きさ」の馬が、道を歩きのんびりと草をはむ。また椎名は、漁港で見た大きなカジキマグロにそそられて早朝出港の漁船に丸一日同乗する。なかなか釣果が上がらない17時の遅い昼食は、朝、カジキの餌用のカツオをぶつ切りにし、酢、醤油、唐辛子をまぜた漁師料理。それが「激しく揺れる甲板の上で実に腹にじんじんしみるほどうまい」（椎名）。ちなみにカジキのお刺身はマグロとは違い、薄ピンク色にきらきら光り、その醤油皿にはワサビと島唐辛子が添えられる。もちろんナーマ浜から見る海は透き通る八重山ブルーだった。（AK）

◆研究論文を募集します◆ ピアレビュー(査読)の上、掲載します。

- 【テーマ】 子ども、保育、幼児教育に関するもの。
- 【文字数等】 400字詰め原稿用紙 35枚程度（写真・図表、文献、注を含む）。本文はワードで作成。
- 【締め切り】 随時募集します。投稿予定の方は本誌編集委員会まで。

Mail:youji-no-kyouiku@cc.ocha.ac.jp

お茶の水女子大学・保育を考える公開講座 「乳幼児のくらし」開講 10月募集（予定）

お茶の水女子大学の保育現職者・社会人対象の講座「保育・子育て支援ラーニングプログラム」では2021年10月～12月、下記の要領で、公開講座を夜間にオンラインで開催します。



Brush up Program
for professional

- ◆講師：宮里暁美（お茶の水女子大学特任教授）
- ◆講座名：「乳幼児のくらし」
- ◆日時：(A) 10月27日、11月10・24日
(B) 12月1・8・15日
(水曜日、全6回) 18:20～20:00

「住む・食べる・眠る・飾る・遊ぶ」などの視点から子どものくらしを考えます。日程等、詳細は9月以降お茶大のホームページをご覧ください。費用は(A)(B)各7000円程度。両方受講できます。

お問合せ先:お茶大 ECCELL 社会人プログラム事務局
Mail:nyuyoji-info@cc.ocha.ac.jp